

3 - (6) 美保湾シラス調査

石原 幸雄

目 的

美保湾において「船びき網」や「すくい網」により漁獲され境港に水揚げされるシラスは漁獲の年変動が大きく、漁業者が計画的に操業ができなくなっている。また、シラスを煮干しに加工する業者も原料調達が不安定なため、その数も少なくなり境港の特産品が消滅しつつあることから、シラスの漁獲変動を明らかにし、漁況予測モデルを開発する。

方 法

1) 漁獲量集計調査

鳥取県漁協から鳥取県へ報告される漁獲情報処理システムのデータを用い集シラスの漁獲量集計を行った。

2) 生物測定調査

境港に水揚げされた鳥取県船及び島根県船のシラスの全長及び体重を測定を行った。

3) 操業状況調査

漁場等のデータとして、船びき網(1・2そうびき)及びすくい網を行っている漁船の操業位置や漁獲量、水温等の操業状況を野帳記入してもらい把握した。

結 果

1) 漁獲量集計調査

表1に年別・月別・漁法別の漁獲量、図1に年別・月別の漁獲量の推移を示した。

年により漁獲量の年変動が大きく、近年では漁獲量の多い年で約210トン、少ない年で約90トンである。漁法別に見てみると、すくい網は5～6月、船びき網は11～12月が概ね盛漁期である。なお、漁業許可上の操業期間は、すくい網が周年、1そう船びき網が11～3月、2そう船びき網が11～5月で

ある。

2) 生物測定調査

図2に漁獲量が多い船びき網の盛漁期である2010年11、12月の全長組成を示した。

全長30～50mmのシラスが漁獲されており、ふ化後1～2か月の仔魚を漁獲していると考えられた。また、シラスの魚種を目視で確認したところ全てカタクチイワシであった。

3) 操業状況調査

漁場利用を確認しところ地蔵崎～美保関、境港港湾区域内、小篠津町～大水落川、日野川～平田漁港の水深10m以浅で操業が行われていた。このため、美保湾全域が漁場利用されているのではなく岸近くのみ限定的に利用されておりシラス来遊と岸近くの漁場の形成との相関も考慮し漁況予測モデルの開発を行う必要があると考えられた。

		単位:kg												
年	漁法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2007	すくい網	6,420	25,891	5,220		74,145	38,138	30	90	255	11,376	5,001	1,262	167,828
	船びき網											29,310	16,030	45,340
2008	すくい網	270	0	3,240		3,840	7,200			1,725	9,960	14,820	6,090	47,145
	船びき網	2,010	4,605	6,420		1,155						46,065	11,040	71,295
2009	すくい網	4,194	2,966	735		5,912	12,090	1,200	285	11,100	11,310	11,580	1,995	63,367
	船びき網	81	50									64,035	17,565	81,731
2,010	すくい網	1,935	2,940	3,893		1,200	8,850			30	1,185	15,795	2,550	38,378
	船びき網											35,340	15,465	50,805

表 1 年別・月別・漁法別の漁獲量

図 1 年別・月別の漁獲量の推移

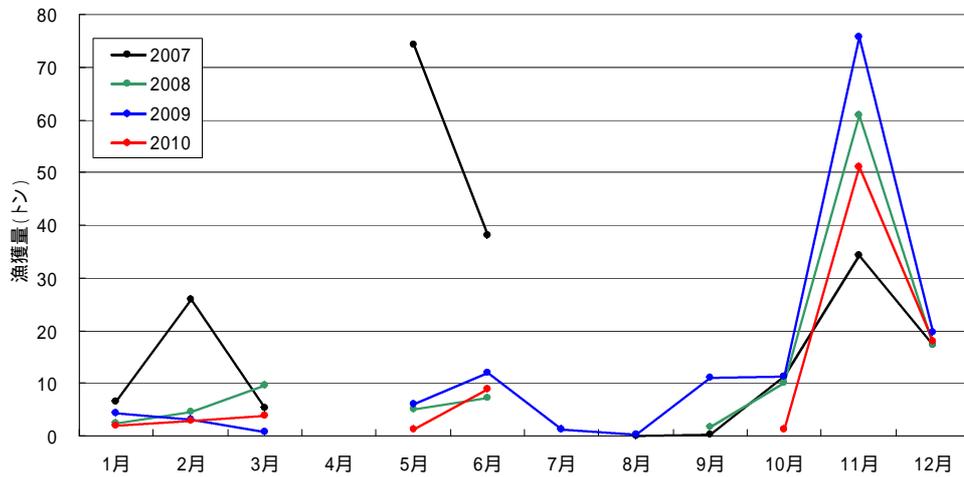


図 2 全長組成

